



先月は清明祭の季節でしたが、雨が続き、ゆっくり墓参りができない方もいらっしやっただのではないでしょうか。
このような場合、GW期間に行っては如何でしょうか。最近はその様なご家庭が増えています。

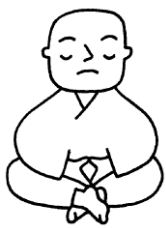
祈る、そして

良啓

四月十四日夜に熊本地震が発生しました。一九九五年の阪神淡路大震災以上のエネルギーが動き、死者四十名以上、負傷者千名以上、避難者十万人以上と報道されています(四月十七日現在)。

東日本大震災の記憶が新しいだけに、短期間での大きな天災に不安を募らせている方は多くいると思います。SNSを見ていると、様々な反応がありますが、その中で被災地に住んでいるでもなく、被災者でもない方が「何もできず、心苦しい」と心境を吐露しています。私はそうは思いません。被災してないからこそ、浄財を寄付することができます。ボランティアとして被災地に赴くことができます。多様な媒体を通じて、励ましたり、心に寄り添うことができます。可能性は無限です。

仏教に「功徳を積む」と言う行為があります。「我々の価値は、生きている間にどの様な行いをしたのかで決まる」と言う教えに基づいています。功徳は「善い行い」であり、「善い」の基準は仏心から生み出されます。そして、仏心は祈ることから始まります。祈りは、気休めでも盲目でもありません。しっかりと自分を内観し、対象を俯瞰する為の大切な一歩です。
まず、被災地の復興と被災者の生活の安寧を祈りましょう。それから、仏心に従って行動してみても如何ですか。



弘法大師のことば

裕俊

いろはにほへと ちりぬるを 色は匂えど散りぬるを

わかよたれそ つねならむ 我が世誰ぞ常ならむ

うみのおくやま けふこえて 有為の奥山今日越えて

あさきゆめみし ゑひもせす 浅き夢見じ酔ひもせず

この有名な「いろは歌」の作者が弘法大師空海という事をご存知ない方もいらっしやるのではないのでしょうか。

この歌は、「いろは四十七字」ともいい、平仮名を一字も重複させずに作られている事で有名です。現代では平仮名といえば五十音を連想する為、四十七字では足りていないのではと感じますが、五十音表のヤ行「い」と「え」、ワ行「い」「う」「え」はア行の「い、う、え」と同じ為省き、四十五字となります。これに当時使われていた「ゐ」と「ゑ」を追加すると、四十七字となるのです。

内容は、「匂いたつような色の花も散ってしまう。この世で誰が不変でいられよう。いま現世を超越し、はかない夢をみたり、酔いにふけつたりすまい」と仏教的な無常を歌っています。釈日本紀(鎌倉時代)と言う書物に、字数制限の中、これだけ優れた仏教的な内容の文章に出来るのはお大師様しかない、と考えられたからです。
様々な才能を持つお大師様ですが、ことさら歌や詩の才能に優れている事を裏付けるエピソードですね。

